

授 業 科 目		開講年次等	必修・選択の別	担当責任者
科 目 名 (コース名)	生 命 倫 理	1 年後期	必修	藤野美都子
細目又はテーマ (ユニット名)	医療・医学研究の歴史・倫理・法			

概要／方針等

生命倫理学は、医学や生命科学に関する倫理的・社会的・哲学的・法的問題およびその関連問題を研究する学問であると、国際生命倫理学会により定義されている。科学技術の目覚ましい発展は、人間の生命に対する大幅な人為的介入を可能にし、人類は、望むことの許されなかった選択肢を手中に収めることができるようになった。しかし、同時に、生命に対する人為的な介入はどこまで許されるのかといったこれまで問われることのなかった新しい問題に直面することとなった。このような事態に対処すべく、生命をめぐる倫理的な問題を研究する学問が生命倫理学である。

本講義では、医療・医学研究の歴史、医療・医学研究の倫理のあり方、さらに生命倫理をめぐる法的規制の動向を理解し、医療と医学研究における倫理の重要性を学ぶものとする。

学 習 目 標

〈末永担当分（医学・医療史）〉

一般目標 西欧および日本の医学・医療史の大まかな流れを把握し、医学・医療の問題について歴史的に考える態度を身につける。

行動目標 ① 古代から現代までの医学・医療史の基本的事項の理解に基づき、その大まかな流れを説明できる。

② 医学・医療に関する歴史の流れ全体の中かで、現代の医学・医療の位置を考察することによって、自分なりにこれからの医学・医療のあるべき方向について議論することができる。

〈福田担当分（生命と医療の倫理学）〉

一般目標 アメリカ合衆国に生まれたバイオエシックスの基本原則とされるものが何であるかを理解し、あわせて医学・医療の問題について倫理的に考える態度を身につける。

行動目標 ① バイオエシックスの課題が「生命」の価値をどう保証し直すかにあることが判る。

② パターナリズム、インフォームド・コンセントといった言葉の意味が判る。

③ SOLとQOL、キュアとケアといった言葉の意味が判る。

④ こうした考え方に潜む問題点を知った上で意義が理解できる。

〈藤野担当分（生命倫理法学）〉

一般目標 生命倫理に関する法的規制の動向を理解し、医療と医学研究における倫理のあり方を考える能力を身につける。

行動目標 ① 日本における生命倫理に関する法規の内容を説明できる。

② 生命倫理に関する法的統制の日本における実態を説明できる。

③ 生命倫理に関する法的統制の国際的動向を説明できる。

④ 医療と医学研究に対する倫理をめぐる法的規制のあり方について、自ら考えることができる。

〈全体を通して〉

一般目標 生命倫理の基本的事項を把握することにより、臨床現場で生じる様々な倫理的問題に対処する能力を身につける。

行動目標 ① 生命倫理の諸問題を列挙できる。

② それらの諸問題が歴史的・文化的・社会的な背景を有していることが理解できる。

③ それぞれの諸問題について、自ら考えることができる。

テ キ ス ト

特に指定しない。

参 考 書

〈末永担当分（医学・医療史）〉

川喜田愛郎『近代医学の史的基盤』上下（岩波書店・1977年）

児玉善仁『〈病気〉の誕生』（平凡社・1998年）

W・ラフルーアほか編『悪夢の医療史』（勁草書房・2008年）

〈福田担当分（生命と医療の倫理学）〉

今井道夫、香川知晶（編）『バイオエシックス入門（第三版）』（東信堂・2001年）

赤林 明編『入門・医療倫理Ⅱ』（勁草書房・2007年）

香川知晶『生命倫理の成立 人体実験・臓器移植・治療停止』（勁草書房・2000年）

〈藤野担当分（生命倫理法学）〉

甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』（法律文化社・2010年）

樋口範雄ほか編『生命倫理と法Ⅰ・Ⅱ』（弘文堂・2006年、2007年）

樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法』（有斐閣・2004年）

評 価 方 法

授業への参画態度および学期末に提出する課題により、総合的に評価する。

そ の 他（メッセージ等）

〈末永より〉

現代社会における最大の課題といってもよい医療の問題について考えるためには、過去の医療の歴史を振り返るとともに、現在の医療のありようを正確に把握する必要があります。新聞などで、その動向をチェックすることをおすすめします。

〈福田より〉

この授業では、生命倫理や医療倫理の具体的諸問題のうちに潜む基本的な論争点を取り出すことに努めたい。医療従事者に限らず、広く社会一般と共通の土俵をつくるのが目標である。あわせて、カタカナ言葉の氾濫に潜むうさんくささにも気づいておきたい。

〈藤野より〉

「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、生命倫理に関する法の状況は刻々と変化しているので、受講生が、主体的に最新の情報を収集することも求めます。

授 業 計 画

回数	月	日	曜日	時限	項 目	内容（キーワード等）	担当者
1	10	6	木	Ⅱ	生命倫理を考える①	導入としてのケース・スタディ	末永 恵子 福田 俊章 藤野美都子
2	10	13	木	Ⅱ	西欧前近代の医学・医療史	ヒポクラテスの誓い、前近代の医療の諸相	末永 恵子
3	10	20	木	Ⅱ	近代医学の展開と問題	被験者・患者の人権、医学犯罪	末永 恵子
4	10	27	木	Ⅱ	医学実験の倫理	ニュルンベルク綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言についての考察・討論	末永 恵子
5	11	10	木	Ⅱ	生命倫理を考える②	ルワンダの内戦を通して生命の尊さを考える	カンベンカ・マリールイズ
6	11	17	木	Ⅱ	バイオエシックスの問いかけ	自然選択と人為的決定、生命の価値	福田 俊章
7	11	24	木	Ⅱ	バイオエシックスの誕生とその展開	バターナリズム、インフォームド・コンセント	福田 俊章

回数	月	日	曜日	時限	項目	内容(キーワード等)	担当者
8	12	1	木	Ⅱ	「生命の質」と「人格」理論	生命の尊厳と質、ケアとケア、人格	福田 俊章
9	12	8	木	Ⅱ	生命倫理を考える③	QOLとケア	末永 恵子 福田 俊章 藤野美都子
10	12	15	木	Ⅱ	生命倫理を考える④	映画「いのちの作法」を観る	末永 恵子 福田 俊章 藤野美都子
11	1	12	木	Ⅱ	生命倫理と法(1)	人の誕生をめぐる法的問題	藤野美都子
12	1	19	木	Ⅱ	生命倫理と法(2)	治療をめぐる法的問題 人の死をめぐる法的問題	藤野美都子
13	1	26	木	Ⅱ	生命倫理と法(3)	医学研究の法的規制 生命倫理法の国際的展開	藤野美都子
14	2	2	木	Ⅱ	生命倫理を考える⑤	総括討論	末永 恵子 福田 俊章 藤野美都子

担当教員一覧

教員氏名	職	所 属	備 考
カンベンカ・マリールイズ	副理事長	ルワンダの教育を考える会	
末永 恵子	講 師	人間科学講座	
福 田 俊 章	准 教 授	人間科学講座	
藤 野 美 都 子	教 授	人間科学講座	